

## 「今なぜ、偉人記念館、新図書館が必要か」

～再生人吉の新しいシンボル・魅力づくりとして～

<2021年12月7日 「人吉の偉人に学ぶ会」会長 松本晋一>

### ○偉人記念館がなぜ必要か？

**その1**、人を学ぶ、人に学ぶ、その人の生き方の意味を知ること、その時代の人と歴史を学ぶことはその地域にとって、その人々にとって、その時代にとって、そこにある大事なこと、普遍的なものを学ぶことにつながります。それはその人の人生、その地域での大切なものを探すことにもなります。

**その2**、なぜ、このような人物たちが、この人吉球磨の地から生まれたのか、なぜ、その人たちがどんな業績を持ち、郷土、そして日本に貢献することが出来たのか、そのルーツ、その根源を探ること。それらを探り、学び、理解すること、さらにそれを具現化することが私どもの最終的なテーマの一つです。

**その3**、“人に学ぶ”ということ、この地の子どもたち、若い人、お年寄りを含め、この地の人物の生き方、在り方、人物像を知ること、探ることが出来ます。そのことから、その人から、その人と成りを学ぶことはとても大切です。この新しい偉人記念館づくりが新しい人吉の再生と復活のシンボルにもなるのです。

### よい人の文化＝人吉の文化＝おひとよし文化＝まちづくりはひとづくり

1年半前の水害で、歴史的な建物を始め人吉の中心部の大事なもの、このまちの良さが少なくなりました。しかし、ハードとしての建造物や鉄道はなくなっても、ソフトとしてそれらを創って来た人々、この地でこれまでの数々の困難を乗り越えた人々、それ以前からこの人吉球磨で生まれ、この地で活躍した人物たちの存在があります。この地から出た人、この地で活躍した人々を知ること、この困難を乗り越える力が生まれます。それが偉人記念館の役割です。

「日野熊蔵？そぎゃん人は聞いたことはなかバイ！」と、地元の人たちに言われるようではいけません。それはこの地の行政や教育者、親たち、私どもの責任でもあり、また逆にそれは教えるべき、語るべきもの（人）なのです。最低でも「ようは知らんとバツテンが、こん人はあの〇〇で〇〇ばしなつた人げなたい」ぐらいは、語って頂けるように願っています。

### ○新しい図書館がなぜ必要か？

**その1**、今、新図書館に求めるものは、それはこの地域を紹介する情報センターの役割です。そのテーマは各種ありますが、中でも大切なのは、この人吉球磨の地元に関すること、自然、歴史、文化、産業、教育、そして災害などこの地に所縁<sup>ゆかり</sup>のテーマのすべてがあ

ることです。

**その 2、**この地元出身の人材、人物、先人、偉人たちの存在の発信です。彼らが生きた、育った、地元の地理や自然環境、特に球磨川と川辺川、彼らをそうあらしめた九州脊梁の山々とその支流、そして流域沿線と球磨川河口までに関する資料や情報です。

**その 3、**次にこの地の歴史と文化です。近代は勿論、相良 700 余年の人吉球磨と、それ以前のこの地の自然や歴史、文化についての情報や資料が瞬時に探れる場を作ることが大事です。

**その 4、**歴史と伝統、産業と教育、これまでの過去とその文化を知ること、今と現在、これからのこと、その未来が語れます。この人吉球磨のあり方のこれまでを探り、次の将来のあるべき姿を探るためにも、この新図書館、偉人館、これらの情報センターの存在と役割が必要です。

**その 5、**地域を知る、地元を知る、人を知る、ということは、自分自身が由って立つことの基本になります。これこそがアイデンティティ（自分の個性、存在理由）です。この地の由って来たところ、この地の独自性、普遍性、個性を知ること、他の所とは異なるまち、この人の、この地の、その存在の拠り所となるものです。地元を知ることでそれぞれの住民個人、まち、行政の独立独歩が可能となります。そしてその元になるものは言葉と文字、即ち、教育そのものなのです。

この地で初めての偉人記念館、新図書館の役割は他の先進地偉人館図書館とは異なるコンセプトで、新機能・新企画の創造型偉人館・図書館とし、特に“球磨川の自然、人吉球磨の歴史、郷土の文化、先人顕彰、地元の産業文化、林業、焼酎、温泉、木造建造物、肥薩線・くま川下り等の産業遺産などに特化し、地域づくりに関する情報発信を行い、ここを市民や研究者、観光客の学びの場（サロン）とするのです。併せてこの館には各種の災害に対応する災害情報センター機能、避難所機能を持たせるのです。これらの知財としての偉人記念館、新図書館のこの 2 つの館を球磨川下りや肥薩線と共に、人吉の新しい魅力づくりとその発信源（シンボル）に出来ればと思います。

これらの人物記念館がなぜ大事か、なぜ新図書館が必要かを、民間レベルだけではなく、人吉市や球磨郡、熊本県など、行政のお立場で、独自にそのことについて協議して頂く組織や調査研究班を創って頂ければと思います。今、それがこの被災した町と球磨川流域の将来のために、新しいまちづくりのために、ぜひ必要なことです。

※これらの偉人記念館、図書館づくりの提案は、“人吉の復興まちづくり“に向けて、シリーズその③「人吉の魅力を生み出す 2 つの提案」＝被災から 1 年、“人吉の町のこれから“をこう考える＝（月刊球磨川春秋 57 号 2020 年 12 月号）と、この「これからの人吉の魅力づくり」抄録集にも再掲しましたので、どうぞ、ご覧ください。